



QFN通信

Qshu Forest Network News

NPO法人 九州森林ネットワーク

第4回九州森林フォーラムin長崎でお会いしましょう

理事長 佐藤宣子

QFN (Q-shu Forest Network) 通信第2号をお届けします。

9月6日に九州に上陸した台風14号(ナービー)はかつてない豪雨をもたらし、宮崎県を始め九州の山々や町に大きな被害をもたらしました。被災された会員の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

本号では、「九州の家の造り方、結び方」をテーマとして開催される第4回九州森林フォーラムと総会の案内を中心に掲載しています。

林野庁調べによると、地域材住宅、産直住宅、県産材住宅など顔の見える家造りが年間約7千棟建設されています。しかし、それを更に拡大していくためには林業界や家造りの現場には解決すべき様々な問題が横たわっています。解決方向の一つが住宅や製品の規格化であり、そのための林産地と建て主、設計者、大工、製材業の情報交換と相互理解が不可欠です。フォーラムでは、四国における「サンゲンカク」という提案型住宅についての講演や九州各地の事例紹介を通して、九州の家造りのあり方や山と街のネットワーク手法についての徹底討論を企画しています。10月28~29日には、お誘い合わせの上、長崎のフォーラムに是非ご参加下さい。

このネットワークが設立されて1年が経過し、会員も100名を超え、ネットワークの輪が広がってきました。2年目も引き続き、会員登録(会費納入によって自動的に更新されます)をして頂きますようにお願い致します。



ネットワークキャラクター
「(仮称)やまちゃんず」

愛称募集中!

2005年9月 創刊第2号

発行日 2005. 9. 1

<発行>
NPO九州森林ネットワーク
本部:大分・上津江町
<編集責任>
宮崎・諸塚オフィス
<担当オフィス>

目次

第4回九州森林フォーラムを開催します!	2~3
Blogぶろぐブログ	4
会員Web訪問② comhouse	5
サテライトNEWS	6
ネットワークオフィス名簿 会員募集案内	7
気になる木になる情報②	8

第4回九州森林フォーラムin長崎を開催します！

◆開催趣旨◆

林業が、山村の過疎化・高齢化と木材価格の急落等によって、地域の中で持続できなくなり、産業と呼べないほど厳しい状況になって久しいところです。昭和40年代の輸入木材の解禁後、住宅業界はつい最近まで外国産材に、その多くを頼っていました。

しかし、近年は国際的な違法伐採規制や森林資源に枯渇等もあって、米材や南洋材など従来の外国産材の供給が減り、価格が高止まりのまま、品質は急激に低下しています。替わって北欧産の木材が一時期多く使われましたが、日本の風土には適さず、ここ数年で一転して住宅業界の国産材回帰が始まっています。ところが、肝心の国産材は木材価格の不振や高齢化で林業が衰退し、原木が出てこない。地場の問屋や製材工場も衰退し、市場の調整能力を失い、十分な品質管理や商品供給ができていない。需要が増えても、国産材価格は暴落しています。

なぜ、需給バランスと市場価格のバランスが崩れたのか。実は、住宅メーカーの多くが品質表示できる集成材製品にシフトし、無垢材と同等の価格で供給する大資本の集成材大量生産工場が現れています。原木価格は、川下から経費を差し引いていく引き算の論理で形成されるため、コストの削減しわ寄せが山に来て、原木はピーク時の価値の1/4まで暴落しています。

なにが問題なのか。確かに外国産材との価格競争も大きな問題ですが、林業界はいまこそもっと謙虚に自分たちのやってきたことを見つめ直す必要があるのではないのでしょうか。すなわち、これまでの山は、流通を問屋や市場に頼りきりで価格だけに一喜一憂し、流通は県産材の推進を標榜しながらも原産地という概念は捨象し、強度や乾燥などの質よりも、見場だけによって高く売れるはるか遠方のブランド材として取り扱われることを望んでいたのではないか。本来の住宅用材の品質を考えず未乾燥材を供給するなど、価格の維持を最優先の価値軸としてしまうことで、生産者にとって本当に大事な、いかにユーザーにとって必要なものにつくるかという姿勢が欠けていたと言わざるを得ません。

一方で、逆にユーザーにとって、木がどこで作られたものか、どうやって育てられたものか、また、家づくりが環境にどう影響を与えるのかという問題は、建築現場を含めてユーザーの志向の外にありました。その結果が、自然環境の悪化であり、シックハウスによる化学物質汚染、欠陥住宅問題などの家づくりの混迷です。

山と街、双方の問題解決の方法は、生産者である林業家と、ユーザーである家の建て主が情報交換し、木の家づくりの手法を構築することです。具体的には多くの課題がありますが、設計者、大工、製材業、林業家の技術面の相互理解によって、バラバラの製品を規格化することや構造材から内装材への展開などがポイントです。

NPO九州森林ネットワークは、木材を生産する山と木材を利用する街がネットワークを組んで、双方の実情と問題点を相互理解し、課題を探り、山と家づくりがこれからどうあるべきかという共通認識を持つための組織です。その主催する九州森林フォーラムは、第1回が林業の街・小国町で行われ、都市と山村の交流の第一歩としてこれからの山のあり方を考えました。第2回は環境都市・北九州市の市民の前で、林業家と家主のディスカッションをし、第3回は九州初の森林認証を取得した林業の村・宮崎県諸塚村での開催となりました。

今回の第4回九州森林フォーラムは、木の家づくり再構築の第一歩として、山から街に対する情報公開の呼びかけの一つであり、家づくりの技術的側面を中心に、山側の変革の理解を図り、それによって街側の取り組みの変化を促すことを企画しています。規格型住宅「サンゲンカク」を開発した戸塚元雄氏の基調講演や九州各地の産直住宅などの事例を通して、これからの九州の家づくりとはどうあるべきかを山と街の視点を交えながら考えたいと思います。

九州森林ネットワーク事務局

プログラム

■開催日：平成17年10月28（金）～29日（土）

■会場：長崎市長崎市風頭町2-1 「矢太楼」

■テーマ：「九州の家のつくり方・結び方」

28日15：00～ 長崎の家づくりの現地見学会

★com_haus ★ながさ木のネットモデル住宅

★本野市営住宅（現代計画研究所設計）

17：00～ 「矢太楼」にて受付開始

18：30～ 九州森林ネットワーク大交流会

29日10：00～ 第2回 NPO法人九州森林ネットワーク総会

10：40～ 九州森林フォーラム 開会挨拶

10：50～ 基調講演 講演者 戸塚元雄氏 根岸徳雄氏

12：20～ 昼食

13：10～ 事例報告 ★企画型住宅com_haus ★小国型健康住宅 ★安成工務店の家づくり運動

14：00～ 徹底討論：地域材を使った家づくりの方法、問題点、木材生産者と利用者の抱える問題等自由に討論し、今後の九州の家づくりを進め方、つくり方、山と街の結び方を探ります。



第3回フォーラムの様子

フォーラムの見どころ・聞きどころ

＝事例報告＝

★企画型住宅による国産材普及の事例 ～com_haus～

家を建てようとする人たちの中には、森林資源を始めとした、環境に興味のある人とそうでない人が混在しています。自然派指向の高まりの中で、ムクな素材を使った住宅を好む若年層が増えてきた反面、パイン材などの輸入品も多く使われるようになってきました。

「環境への配慮」という視点で考えるならば、国産材を利用するのがベターな選択ではありますが、実際のところは、「どちらでも良い」と考えている、いわゆる無党派層の方が、圧倒的に多いのではないのでしょうか。

com_hausではこういった現状をふまえ、国産材の杉材を中心とした、節のある1等材を使い、シンプルでナチュラル感覚の住宅をつくり、そういった「無党派層」を取り込んでいくための、企画型住宅を提唱しています。

★地域材の家づくり・小国型健康住宅の事例 ～熊本県小国町～

熊本県小国町は250年の歴史を持つ林業を基幹産業としてきました。主に内装材として需要を高めてきましたが、近年の木材需要の低迷を脱し、産地がこれからも産地であり続けるために新たな木材需要の具体的な取り組みを行っています。それが小国型健康住宅です。九州地域内の関係者によりワークショップなどの作業を積み重ね、消費者の身近で地元の地域資源を感じられるような家づくりを目指しています。平成14年には福岡県の志免町にモデル住宅を建設し、地域材需要推進の拠点施設としています。

★都市型工務店による森林と環境を守る運動の事例 ～(株)安成工務店～

「近くの山の木で家をつくる運動」を行っている工務店の現場からの実践報告です。具体的には、木材のトレーサビリティの試みや、エコタウンという集住形態の実現に挑戦しています。更には、断熱材の地域循環と資源ゴミの行政を通さない循環システムの試行にも取り組んでいます。また、この機会に林野・環境行政と工務店の関わりの今後の方向性について提案を致します

＝住宅現地見学会＝

★com_haus（大村市）

地域材と他の建築資材をマッチさせたニュータイプの企画型住宅。発想を転換し、まず木の家を普及させることで地域材の支持層を広げることが狙い。事例発表でも紹介します。

★ながさ木ネットモデルハウス（大村市）

「人に優しく、環境に優しい木の家」をキャッチフレーズに長崎県産材を使った家づくりを進める工務店によるモデル住宅。

★本野けやき団地（諫早市） ～設計：(株)現代計画研究所

平成2、3年度に整備された諫早市営住宅。傾斜地を活かして変化のある集落的景観をつくっています。地域材を使った伝統的な民家型構法による家づくりで有名。

基調講演・戸塚元雄氏プロフィール

とつか もとお

昭和14年横浜市生まれ。昭和51年高松市に移住。戸塚元雄建築設計事務所主宰。80年代半ばより棟梁・六車昭氏とともに地域材住宅として四国産の杉を用いた家づくりに取り組む。平成12年7月、地域材の家づくり普及のため「木と家の会」設立に参画、会長に就任。同会は平成14年にNPO法人を取得しており、九州森林ネットワークの良き先例でもある。

森を残せないほどの木材価格暴落の原因

昨日、日田の原木市場調査に行ってきました。6月はスギが8千円を割り込んでいました。確かに、台風風の風倒木だけの影響ではないですね。集成材という「新たな需要」(安い曲がり材を買い支えるというのがふれ込み)が発生しても価格はあがらない。価格は下がっても、需要量以上の供給があって価格が下がるといった全く逆の動き。価格破壊状態です。集成材は、製品になれば無垢材と競合し、結局は原木段階での買ったたきになると思います。

一方で価格が下落しても供給される原因として、再生林がなされない「山アラシ」の山から出材されていることが挙げられます。更に、木材市場は価格下落に加えて出材量まで減ったら、手数料収入が激減するというのもあって、量を確保するために自ら材を集めています(所有者との交渉、専属素材班の派遣など)。つまり、生産と消費の結節というだけではなく、自ら生産を規定している。

以上のような構造の中で、まともに森林を経営して、後生に森林を残すことがほとんど不可能な程に価格が下落しています。こうしたことをデータに基づいて、実証的に明らかにすることが必要です。(佐藤/福岡)

木材市場では、林業の弱体化による供給不足の中で、供給側が需要側からの強いデフレ圧力にさらされています。集成材市場を中心に大量の国産材需要が発生しながら木材価格は下落しています。肝心の市場自体が金融機能の資金ショート対策に終始し、適正価格の形成機能が麻痺し、さらに物流機能までなくしつつあることも一因です。

木材業界も構造改革と情報開示が必至

コスト圧力で業者が立木だけを買ひ、禿山にする「山アラシ」も深刻です。「材を高く買う」として伐採後の枝葉を大量に一箇所に集積して逃げていく。山は水のコントロールが出来ず大雨が降ると大災害を誘発する。環境を守るために施業方法の「公的規制」をしないと手遅れになります。「材が安いから出材経費を落とそう」という引き算の論理では自然は守れません。「ちゃんと地球を守っている木材を提供するシステム」をつくり、それをユーザーに明示し、優先して活用できる努力が要る。その意味で、これから一番重要になるのは、自己批判に基づく木材業界の構造改革(流通改革)、意識改革、そして情報開示です。(諸塚村/矢房)

規制より地道で長期的な森づくりを！

あらゆる規制は現状を停止させる即効性はありますが、長期に亘っての創造性は削がれる危険性もあることを戦後の農業政策が証明しています。確かに、山アラシと言われる人達の作業の結果がこの様な事態を招きました。しかし彼らは事業をやっている訳で、経済性を追求します。どんなに批判しても彼らは別な次元で山を考えている訳ですから言語が相容れない。逆に、台風被害後の放置された山を伐採するなど貢献もしています。即効性のある事は、彼らに別の仕事を作る場を与えることかもしれません。

問題の本質は、木を切らなければお金が循環しない山の仕組みを、税制も含めて大きく見直すべきです。戦後、林業は規制や保護が少なく、民間企業は自由化の嵐に曝されてきました。一方で林業の3セク事業体が多く設立され、価格の安い材料を供給し、膨大な赤字を出しています。木材の流通の簡素化を旗印に公費を使っても、結果として過剰流通を招き木の値段を下げ、山の価値を下げたこととなります。

いろんな問題が潜みますが、山アラシの背景には山主の林業放棄や間違った政策があります。施業放棄林を囲い込み団地化して、地道で長期的な視点の森づくりをする公金活用が必要ではないでしょうか？そこには健全な森林政策理念の基に行なわれる新しい産業が生まれる可能性があると思います。(福岡/吉弘)

岩本清壺理事のWeb「com_haus」

<http://www.kubou.com/>

<Blogからの抜粋を掲載します>

2005,03,20, Sunday

「建物の軽量化 ～適材適所～」

3月初めに着工した、com_205wp

(wpとはウッドパッケージのことです)

九州の杉の木をふんだんに使った、健康指向派のための一戸建て住宅です。さて、その構造材の構成は土台、大引と通し柱に檜材を使用し、柱と梁はすべて杉の乾燥材です。サイズは通し柱をのぞいてすべて3.5寸角(105ミリ)です。

コムハウスでは、軸組と壁工法をミックスさせていますから、あまり大きな柱をつかう必要がありません。屋根や壁に軽量で耐久性の高いガルバリウム鋼板を使っているのもその理由からです。

家の構造材には適材適所で、「必要以上におおきな材を使わない」これがコムハウスの考え方もあります。ただし、見せる材、たとえば軸組工法でもっとも美しいと言われている、架構にはこだわりがあります。つまり、現し材＝露出梁については、見る人にもリズムが良いほうがいいですので、そのような材は大きさをそろえるようにしています。

2005,05,03, Tuesday 「風を感じる、外を感じる」

完成したwp＝ウッドパッケージのリビングの真ん中に立ってみました。東側の窓から吹き込む風が心地いいんです。ここには空間を仕切る壁がないから、その風はそのまま西側の窓へと抜けていきます。「ここは家の中なのか」そんな感覚になるんですね。

大きな家ではないけれど、居ながらにして外、自然を感じることのできる、そんな家なんです。もちろんそのためには敷地自体も環境が良くないといけません。

ダイニングから外へとつながるプライベートヤード、ここは自分たちだけで過ごせる、くつろぎの場所となることでしょう。また、節のある”すっぴんの床板”は時間とともに色合いを増し、どこにもない、ここだけの色に仕上がっていくんです。

自然のなかに暮らしている。そんな気分させてくれる。それがウッドパッケージ。

<プロフィール>

「二百年もつ家がほしい」(彰国社)の著者、伊藤勝さんから以前いただいた手紙にこんなことが書いてありました。

『奇をてらわずに簡単な家を建てるのが難しい時代になりました。簡単な家ではどうしていけないのか。そこが問題です。一番の原因は、家を建てている素材の魅力がないからでしょう。二番目の原因は、素材を生かす知恵が施主にないからです。(中略)これからも勉強を続けて良識派の建築家になってください。素材を生かした家づくりを期待しています。』

この手紙から5年、私たちの素材を生かした家づくりへの挑戦はいまも続いています。

岩本清壺(いわもと せいいち) ハウスプランナー(建築士)

1962年 熊本市生まれ 1996年 (有)公方建設設立 2004年 コム・ハウス設立



九州森林ネットワークのBlog

NPO九州森林ネットワークの「山と緑の最新情報」Blog。環境教育、緑の雇用、Uターン、ワーキングホリデー、山のつばやき、自然派住宅、室内環境etc…。九州の山と街のリアルタイムの情報が満載です。是非ご覧ください。<http://www.geocities.jp/shinrin9net/>

佐賀「木とのふれあい講習会」

16年度に九州森林ネットワーク佐賀オフィスで実施しました！

1. 木の環境教育「多久市北部小学校4年生約80名」

①木の話 ②伐採風景見学

③ワークショップ（木の話、椎茸菌打ち、巣箱づくり）

小学生の子どもたちが、木の循環型自然環境を理解するために、伐採現場の見学や木製巣箱づくりをとおして、「木」を見て、触って、体感することで、山林や木材に興味を持つことで、子どもたちの将来に向けての体験の一つになればと思います。

2. 木の環境教育「川副町児童館親子75名」

近い将来「住宅」をつくる若いお母さん方が「木の良さ」を理解し、子どもたちにとってより良い環境づくりやシックハウス症候群への対策などについて提案しました。また建築全般について「木」の良さを啓発し、木造住宅の需要拡大につながることを念頭に置いて実施しました。また、ワークショップとしてキットで木製本立てづくりをしました。

3. 木の講演会 「一般県民130名」

講師 東京大学名誉教授 有馬孝礼氏

木材利用の専門家である有馬教授に、「木」の良さや「木」循環型環境の話をはじめ、建築における木造住宅の良さをわかりやすく講演していただきました。



鹿児島「北薩匠の家づくり協議会」の試み

建築基準法改正でシックハウスの問題も収まったかに見える現在、街場で家づくりをやっていて感じるのは、エコロジカル、健康、持続可能という言葉がちりばめただけの、実質的に消費者に対してウソをついている住宅事業の多さです。これは、作り手だけの問題でなく、いわゆる「無党派」の建て主たちも、家づくりの環境的な意味にはあまり関心が無く、北欧・北米産のパイン材を好み、室内もフォースターの建材を多用し、24時間換気で満足していることも一因です。作り手も住まい手も、アバウトな家づくりに終始しています。一方、まだ少数派かもしれませんが、LOHASと呼ばれる健康、環境についてこだわりを持った生活を実践している人たちも増えつつあり、彼らは気分だけの健康エコ住宅では納得せず、スジの通った家づくりを求めます。LOHASの人たちが納得する家づくりを進めつつ、「無党派」の方々へもメッセージを送り続けるのが、これから我々の進めるべき家づくりでしょうか。

現在、鹿児島県出水市周辺の工務店4、製材所3、森林組合で「北薩匠の家づくり協議会」を組織し、住まい手、つくり手双方が納得出来る家づくりを目指しています。ツルの飛来地・出水は、海に面しながら周囲を深い山々で囲われ、鹿・イノシシも多く、山々を流れる清流にはホタルも生息しています。江戸時代から薩摩藩北側の守りの拠点として、藩最大の武家集落「麓」を形成し、現在も石積の美しい集落が残っています。在来木造の木組みの技術もしっかりと残り、プレカット工場がありません。職人意識の高い大工が多く、最近つくった住宅では厳しい予算でしたが大工側から「手間はプレカット代程度で良いから手刻みで」と言われたほどです。

実際の活動としては、毎年5月中旬に里山を視察した後、ホタル鑑賞と秋の産業祭に参加し、パネル展示と木軸の小屋の棟上げを行う等、林業の現状と地場産材を使った家づくりの意味を伝え、共感出来る価値観を探っています。まだ、結成して2年あまりで、参加している工務店等も含めて、お互い意識を高めていく段階です。



九州森林ネットワークオフィス一覧

<本部>大分・上津江 (株)トライ・ウッド内 TEL0973-55-2657 0973-55-2323
〒877-0311 大分県日田市上津江町大字川原2810-1 trywood@fat.coara.or.jp

<サテライトオフィス>

福岡(理事長)：佐藤宣子 九州大学大学院農学研究院内 TEL092-642-2876 092-642-2877
〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1 sato@ffp.kyusyu-u.ac.jp

熊本・小国町森林組合内 TEL0967-46-2411 0967-46-5474
〒869-2501 熊本県阿蘇郡小国町宮原1802 oguni@galaxy.ocn.ne.jp

宮崎・諸塚村産直住宅推進室事務局内 TEL0982-65-0178 0982-65-0189
〒883-1301 宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代3068 ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp

福岡・久留米：西村敏彦 西村工務店 TEL0943-72-2256 0943-72-3996
〒839-1234 福岡県久留米市田主丸町豊城585 info@morino-ie.com

鹿児島：村田義弘 自然木 TEL099-812-5701 099-812-5701
〒892-0023 鹿児島市永吉町2-29-3 jinenmoku@nifty.com

長崎・大村：岩本清彦 (有)公方建設 TEL0957-53-1142 0957-53-9532
〒856-0048 長崎県大村市赤佐古103-4 iwamo@kubou.com/

沖縄：小渡勝也 (株)幸和 TEL098-936-9231 098-936-2667
〒904-0102 沖縄県中頭郡北谷町字伊平417-1 odo@tokukei.com

福岡市 川崎建築構造設計事務所内 TEL092-574-8544 092-574-8545
〒811-1303 福岡市南区折立町3-7-206 kawa2892@joho-fukuoka.or.jp

北九州市：(有)ウッデイ工房内 TEL093-692-5430 093-692-1975
〒807-0875 北九州市八幡西区浅川台1丁目5番 k-shimasaki@woody-koubou.com

大分市：三浦逸朗 ミウラクワノパートナーシップ(有) / プラス・エコ TEL097-504-3087 097-504-3088
〒870-0901大分市西新町1-3-5サンビル1階 RXA04312@nifty.ne.jp

北九州市：(株)安成工務店内北九州支店 TEL093-475-2323 093-475-2335
〒800-0226 北九州市小倉南区田原新町2丁目4番1号 kitakyusyu@yasunari.co.jp

熊本・八代：球磨川ライン木の家ネット TEL0965-35-8430 0965-35-8431
〒866-0081 八代市植柳上町683-5 (株) 井本工務店内imotokmt@vesta.ocn.ne.jp

佐賀：三原ユキ江 (株)三原建築設計事務所内 TEL0952-22-0051 0952-22-0054
〒840-0041 佐賀市城内1-10-30 mh_yukie@hotmail.com



事務局から会員募集および更新のお知らせ

2年度目の会員の更新手続きと、年会費のご入金を頂きまして、ありがとうございます。
現在手続きを完了されている会員の皆様へは、10月中には新しい会員証をお届けできるよう準備をしております。

新規に入会をご希望の方、まだ更新がお済みでない会員の方もよろしくごお願い申し上げます。

★第5回森林フォーラム in 上津江の準備中です！★



- 開催日：平成18年4月中旬 予定
- 会場：大分県日田市上津江町
- テーマ：「（仮題）森を守る！～働き手達の思いを繋ぐ」

日本の森林環境の危機が叫ばれて久しいですが、近年、林業の採算性が著しく低下する中で、九州では地域環境の悪化を招くような大面積の皆伐施業が広がり、その後植栽がなされない放置森林が増加しています。賃金の引き下げなど働き手達にもしわ寄せがきていると言われています。

林業の最前線で活動している働き手達から森林の実態を発信することが求められています。そして、環境保全に貢献しうる林業にどのように転換していけばよいのでしょうか？森林認証はそのツールに成りうるのでしょうか？

大テーマですが、第5回フォーラムでは、働き手達自らの言葉で山の実態を発信し、森を守る方法について議論したいと思えます。

- 主催：NPO法人 九州森林ネットワーク
- 共催：(株)トライウッド、くまもと山仕事仲間の会
- 基調講演 速水 亨 氏（速水林業代表）に交渉中です

はやみ・とおる 1976年慶応大学法学部卒業。尾鷲ヒノキの産地である三重県海山町に約1,070haの森林を有する速水林業の九代目として家業を継ぐ。

環境に配慮した森林経営を実行し、2000年2月に世界レベルでの健全な森の証明であるFSC認証（森林管理協議会）を日本で初めて取得。

現在、林業界の若き先導者として、（社）日本林業経営者協会副会長、農林水産省林政審議会委員、林野庁機械化推進会議委員等、数多くの要職を務め、林業と環境の両立を目指し、日本の森の再生に積極的に取り組んでいる。

気になる情報・木になる情報

◆G8サミットで森林の違法伐採対策が合意

7月のイギリスでのグレンイーグルス・サミットで、地球環境に悪影響をもたらす森林の違法伐採対策が合意されました。同サミットで採択された「グレンイーグルス行動計画」で、木材生産国と消費国双方が違法伐採対策に取り組むことが必要とされています。

これを受けて、小泉首相は「日本政府の気候変動イニシアティブ」を公表、政府調達による違法伐採材排除などに踏み出す方針を内外に明らかにしました。



◆政府調達の木材製品「違法伐採の原料排除」

サミットでの森林の違法伐採規制の合意を受けて、政府は官公庁が購入する木材製品について、違法伐採などで伐りだした木材原料の利用を来年度から認めない方針を決めました。

製品を購入する際に、合法的に伐採された木材であることの第三者認証を求めるもので、国産材についても同様に適用される予定です。

具体的には、おそらく森林認証材が中心になるでしょうが、これからは単に国産材であることだけでなく「ちゃんと森を守っている木材」であることが求められるようになるでしょう。